

芳泉中発未来へ

「生きる力」を育む教育をめざして

平成30年1月
芳泉中学校
学校だより

「教育に関する総合調査」の結果が まとまりました。

学校満足度については総合的によい評価をいただいている一方で、「地域協働」への関心をさらに高めていく必要があります。

十一月末に実施した「教育に関する総合調査」の結果がまとまりました。この調査は、いわゆる「学校評価」のための基礎的な資料とするために、岡山市のすべての公立学校で平成二十六年度から実施しているものです。

今年度、本校では、生徒対象の調査項目29、保護者対象の調査項目26、教職員対象の調査項目14、そして、生徒、保護者、教職員それぞれの自由記述回答という構成で行いました。

調査結果を見ますと、生徒、保護者とも、肯定的な回答（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」）がほとんどの質問で前年度を上回っており、落ち着いた学校環境を反映して、総合的には学校教育への肯定的な評価をいただけたのではないかと考えております。

保護者評価の高い項目

- 学校の雰囲気よさ
- 学校教育参観機会の充実
- 学校行事の内容の充実
- 安全への配慮

総合的には学校教育への肯定的な評価をいただけたのではないかと考えております。

特に、保護者への質問項目については、24項目すべてにおいて昨年度を上回る結果となっており、「学校の雰囲気よさ」、「学校教育の参観機会の充実」、「学校行事の内容の充実」、「安全への配慮」に関する質問などへの肯定的な回答が90%を超えているほか、「わかりやすく充実した授業」、「保護者への情報提供」、「家庭学習に関する学校からのアドバイス」の充実なども前年度に比べて肯定的な回答の割合を大きく伸ばしています。

一方で、「家族での地域行事への参加」に代表されるような、家庭と地域に関する項目については、岡山市の平均と比較しても肯定的な評価の割合が低いものが複数見られます。

教職員調査でも「子どもたちの郷土を愛する心が育っている」への肯定的な回答が岡山市平均に比べて低くなっていたのですが、芳泉中学校区は、子どもたちの育成に関係する地域の活動や人材のネットワーク等が非常に豊かなこと

平成29年度 教育に関する総合調査結果 岡山市立芳泉中学校
岡山市共通項目 生徒質問 肯定的な回答の割合(%)

質問文	平成28年度	平成29年度	市と比較
1 私は、人が困っているときに進んで助けている。	82.4	83.1	0.8
2 私は、外国の人に話しかけられたら、進んでそれに答える。	58.0	60.2	1.8
3 私は、学校に行くのが楽しい。	83.1	87.9	3.7
4 学校の授業はわかりやすく楽しい。	71.4	77.8	7.2
5 私は、家で苦手な教科の勉強をしている。	49.9	57.6	4.8
6 私は、家の手伝いを進んでしている。	62.0	63.9	▲1.8
7 私は、早寝早起きをするなど規則正しい生活をしている。	61.5	63.1	1.2
8 私は、テレビを見たりゲームやメールをしたりするのが長時間にならないように気をつけている。	50.7	53.1	0.0
9 私は、食事のとき、好き嫌いをなく食べている。	76.4	76.5	▲0.7
10 私は、地域の人に進んであいさつをしている。	77.4	76.8	▲4.9
11 私は、地域の行事に役割をもって参加している。	36.7	40.4	▲3.3
12 私は、先生や地域の方との関わりの中で、将来の進路や生き方について考えることがある。	59.7	65.5	5.0
13 私は、自分で計画を立てて勉強している。	59.1	63.4	5.1
14 私は、今住んでいる地域や岡山市の自然に興味や関心がある。	43.4	46.9	1.1
15 私は、今住んでいる地域や岡山市の歴史に興味や関心がある。	39.0	45.2	2.2

平成29年度 教育に関する総合調査結果 岡山市立芳泉中学校
芳泉中独自項目 生徒質問 肯定的な回答の割合(%)

質問文	平成28年度	平成29年度
16 私は、学校生活の中で、先生や友達の話をしっかり聞いている。	93.5	91.3
17 私は、学校生活の中で、話し合い活動に積極的に参加している。	69.7	69.4
18 私は、学校生活の中で、自分の意見を積極的に発表している。	49.4	52.7
19 私は、学校生活の中で、自分の考えを文章にしっかりまとめている。	53.9	54.8
20 私は、分からないことがあれば、自分で調べて解決しようとしている。	70.6	76.9
21 私は、普段(朝読書の時間も含む)、読書をよくしている。	71.1	69.7
22 授業や学校行事などで、人の生き方や命の大切さ、豊かな心のあり方について考える機会がある。	74.9	79.5
23 私は、学校のルールやマナーを守っている。	94.7	94.0
24 学校行事(体育会・宿泊研修等)は充実していて、私は、積極的に参加している。	88.0	90.4
25 部活動は活発に行われており、私は、積極的に参加している。	84.9	87.9
26 先生は、学習内容で分からないことを質問したら、丁寧に答えてくれる。	86.7	91.1
27 先生は、意見や悩みを聞いて、一緒に考え、対応してくれる。	81.8	87.2
28 先生は、間違いや悪いことに対して、きちんと正しい、注意したりしてくれる。	90.0	88.6
29 学校の施設や設備などの環境は整っており、私は、安全に学校生活を送っている。	89.4	87.2

るなので、それらを有効に活用できるような地域協働を充実させていくことが大切であると考えます。

「生徒」、「保護者」の質問に対する回答の結果は次の表の通りです。

生徒調査項目では、学校満足度の中心項目とも言える「学校へ行くのが楽しい」という質問(No.3)に87.9%の生徒が肯定的な回答を示しています。毎日の授業や部活動、学校行事など、生徒にとって楽ではないけれども、それを乗り越えていくことによる達成感や仲間意識などが高まっていく活動が充実していることと関係が深いと言えるでしょう。この質問に関し

「学校へ行くのが楽しい」と87.9%の生徒が感じています。

生徒対象の質問紙から

「メディアコントロール」と家庭学習に関する項目では改善がみられます。

昨年のこの調査についての学校からの保護者向け文書では、「メディア利用」のNo.8(長時間にならないようにしている)と「家庭学習」に係る項目No.5(苦手教科の勉強)、No.13(計画を立てて勉強)が市平均よりも低く、課題として取り上げましたが、今年度は、メディアコントロールに関するNo.8は市と同レベルにまで改善され、家庭学習の項目でもいずれも市平均を5ポイントも上回る状況に改善されています。

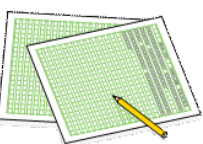
自分の意見を整理し表現する力は、今後特に求められる重要な力の一つです。

その一方で、No.18「意見の積極的発表」No.19「考えを文章にまとめる」では、肯定的な回答が50%台前半となっています。従来の子どもたちの学習では、答えが明確な設問に端的に答えるスキルについては、問題集や学習プリントでもそうした形式の問題が多いこともあって、かなり徹底して取り組まれていました。しかし、現行の学習指導要領、及び次期学習指導要領でも求められている、自分で課題を見つけ、自分の表現の判断の筋道を考え、自分の表現の

仕方では伝えていくような力という意味では不十分な生徒が多いという実態があります。

たとえば、一年生と二年生の夏休みの自由課題であった「税に関する作文」では、「岡山市長賞」を受賞するようなすぐれた作品もありましたが、出展された作品を読んでも見たときに、多くの生徒が生活の中から課題を自分で見つけ、題名を付け、論点を整理し、根拠を交えて分かりやすく意見を表現することに困難さを感じているようでした。

「書いて表現する」ことは、高校でも大学でも大切な力となりますから、中学校の時から機会を捉えてしっかりと文章を作って、表現力を高めていくことが大切です。



「地域との関わりや地域への関心」を高めるために「地域協働」の取組を盛り上げていきたいと思います。

総合調査における生徒の質問で、毎年課題としてあげられているものに「地域との関わりや地域への関心」に関するものがあります。今年度の結果においても、質問No.10(地域の人のあいさつ)、質問11(役割を持って地域行事に参加)等の項目では、市平均に達していない状況が見られます。昨年度の調査における同質問の市との差はマイナス6ポイントでしたから、その差は3.3ポイントに縮小してはいるものの、肯定的な回答が40.4%というレベルにとどまっています。

学校、家庭、地域がそれぞれの役割と責任を明確にし、協働して子どもたちを育てていくという地域協働学校の理念を実現するために岡山市内の各地域で子どもたちの参加できる活動が行われていますが、本校の生徒たちの周りにも地域行事等への参加の機会はかなり用意されています。「地域」を校区から岡山市南区にまで広げて考えると、二年生全員を対象とした職場体験も十分その範疇（はんちゆう）に当てはまりますし、岡山市社会福祉協議会主催の「夏のボランティア」では、この夏178名の生徒が老人ホームや保育所などの施設や事業所などの活動に参加しました。校区の中で行われた活動では、浦安夏祭りへの生徒有志26名による出店やダンス部による演舞の参加、芳泉地区防災訓練への参加（39名）をはじめ、南公民館主催の各種ボランティア、芳泉地区のラジオ体操の会とそれに付随した学校敷地内の清掃活動などにも多くの生徒が参加しています。

家庭内での学習習慣の形成やメディアコントロールの難しさも保護者対象の質問紙から

保護者対象の質問紙では、前年度と比較可能な全24項目で、肯定的な回答の割合が高くなっています。特に前年度に比べて伸びの著しい項目は、No.2（人材活用に

平成29年度 教育に関する総合調査結果 岡山市立芳泉中学校
芳泉中独自項目 保護者質問 肯定的な回答の割合(%)

質問文	平成28年度	平成29年度
16 学校の雰囲気は良く、子どもたちは楽しく学校生活を送っている。	88.2	92.4
17 学校は、家庭や地域と連携・協力して教育活動を進めようと努力している。	84.6	88.6
18 学校は、保護者や地域の人が授業や学校行事を参観する機会をよく設けている。	90.5	92.6
19 学校の授業は充実していて、子どもたちにとって分かりやすく、工夫した指導が行われている。	72.6	81.2
20 学校行事(体育会・宿泊研修等)は充実して、内容も適切である。	89.6	92.6
21 部活動は活発に行われており、充実している。	86.0	87.2
22 学校は、家庭学習の手立てについて、わかりやすくアドバイスしている。	62.3	69.5
23 お子さまは、家庭学習を計画的におこなっている。	49.4	54.5
24 お子さまは、テレビやビデオを見たり、ゲームや携帯電話の使用時間を決めて生活している。	41.0	41.4
25 教職員は、一人一人の生徒を大切にされた対応をしている。	80.8	85.3
26 教職員は、保護者に対して誠意をもった対応をしたり、相談に応じたりしている。	85.7	89.9

平成29年度 教育に関する総合調査結果 岡山市立芳泉中学校
岡山市共通項目 保護者質問 肯定的な回答の割合(%)

質問文	平成28年度	平成29年度	市と比較
1 あなたは、子どもの前でも近所の人などにあいさつをしている。		95.7	▲ 0.9
2 学校では、学校内外の人材の活用を進めているが、そのことで子どもの総合的な学力は伸びてきていると感じる。	59.9	74.6	8.2
3 学校や地域では、様々な体験活動の充実を図っているが、そのことで子どもの総合的な学力は伸びてきていると感じる。	62.1	73.5	3.3
4 学校は、教育活動の様子や情報をよくわかるように伝えている。	76.5	85.2	4.3
5 学校は、安全などに配慮して施設・設備を整えている。	87.0	92.4	3.3
6 あなたは、計画的に勉強するよう子どもにうながしている。	75.8	82.6	1.4
7 あなたは、子育てを通して、子どもの思いやりの心が育ってきていると感じる。	87.7	93.7	3.7
8 あなたは、子育てを通して、子どもの郷土(住んでいる地域や岡山市)を愛する心が育ってきていると感じる。	66.3	73.1	2.0
9 あなたは、子どもが早寝早起きなど、規則正しい生活ができるようにしている。	73.4	77.1	▲ 1.2
10 あなたは、子どもが食事を好き嫌いなく摂ることができるよう子どもの食生活に気を付けている。	85.6	89.3	2.6
11 あなたは、年齢に応じた家庭の役割を子どもに与えている。	65.1	70.2	1.0
12 あなたの家族は、家族で地域行事に参加している。	47.7	53.6	▲ 0.6
13 あなたは、子どもを様々な体験活動に参加させている。		50.0	▲ 1.1
14 あなたは、地域の子どもたちに積極的に声をかけている。	46.7	52.2	▲ 4.5
15 地域の大人は、子どもの手本となるようにルールを守っている。	62.8	71.2	0.2

よる総合的な学力向上↓14.7ポイントアップ)、No.3(体験活動充実による学力向上↓11.4ポイントアップ、No.4学校からの情報提供↓8.7ポイントアップ)、No.19(わかりやすく工夫された授業↓8.6ポイントアップ)などです。

こうした高い伸びの背景には、学校の計画した教育活動が生徒や

家庭のニーズとよく適合していることに加え、学校教育活動に関する情報をこれまで以上に学校からのメディア(学年だより、保健だより、図書館だより、学校だより、学校ホームページ等)でしっかりとお伝えできたことも関係しているのではないかと思います。



子どもの自信のよりどころを築く声かけを。

保護者対象の質問項目のうち、家庭内での学習習慣の形成やメディアコントロールについては、「子どもには言っているけれども、なかなかうまくいかない。」という苦勞が結果から伝わってくるようです。一方で、子どもたち自身に「本気スイッチ」が入ったときには、ゲームやSNSに対する向き合い方が全く変わってきます。受験のための勉強に集中するために、自らの意思でゲーム機を遠ざけたり、三年生の二期からライオンをシャットアウトしたような例もあります。

先日の3校PTA合同教育講演会で講師の大嶋啓介氏が話されていましたが、子どもが自分の持つ可能性に気づくことは、子どもたち自身の意識や行動を変えていきます。また、子どもをよく観察し、本当にその子について優れていると思っただ箇所は、あらゆる機会を見つけて褒め続けて、自信のよりどころを子ども自身の中に形成することも大切です。子どもを取り巻く大人が、子ども自身に自分の潜在的な力と可能性を気づかせるような関わり方をすることで、子どもたち自身の目標達成に向けた「スイッチ」をいかにしてオンにするかを考えていきたいと思います。



自由記述のご意見も共有していきます。

保護者の方々には、自由記述でも多くのご意見をいただいています。

◎ 子どもの会話から授業や行事、部活動のこと、先生や友達のことを知ることができ安心感や充実感につながっているように思う。特に体育会は生徒主体の姿がよく現れており、そこに生徒と先生の信頼関係を見ることで誇らしい気持ちになった。

↓ 学校行事の充実が高い評価をいただいている根拠には、このご指摘のような体育会の子どもの姿があると思います。二期の始業式に団長は決意表明を全校生徒の前で行い、自分たちで主体的に考えた応援で先輩が後輩を指導し、課題を解決していく中で対話と協力を通じてチームワークを深めていきます。このプログラムには、教科や部活動の指導を通じて秀逸な集団づくりを行ってきた体育科の教員チームのノウハウがたくさん組み込まれています。学校としても励ましとなるお言葉をありがとうございます。

◎ 宿題・ワーク等の提出は習った後に出すことは無理か? テスト前にテスト勉強ではなくワークの提出ばかり気にしている子どもが多いと思う。テスト範囲のワークと思うが、本来のテスト勉強までたどりついていないように思う。

↓ 実際にご指摘のとおり状況が見られることがあります。「提出物を出す」ことのほうが「提出物の仕上げ具合」よりも生徒の中で優先されているケースもあります。提出物のどこが不十分なのかを教師が適切に指摘して、授業や個別指導で本人に還元できるようにワーク等の使い方を考えていく必要があります。ご意見ありがとうございました。

◎ 部活動の顧問の先生の熱心な指導に感謝している。土・日もほぼ毎週どちらかに練習があり、試合があれば両日ともになる。先生方の過重労働、親としては子どもと過ごす時間が激減、子どもも交友関係が部活に限られてくる。部活以外にもまだいろいろな可能性や人との関わりが必要な時期だと思ふのでゆとりある部活動の在り方について考えていただきたい。

↓ 部活動の教育効果は大きなものがあり、親として子どものひたむきな姿を見る機会は、学習よりも部活動の方がはるかにたくさんあります。また、学校を訪れた人が最初に接するグラウンドで活動する選手の礼儀正しいあいさつは、学校の雰囲気象徴するほど強い印象を訪問者に与えるようなインパクトの大きなものです。

一方で、家庭の休日の過ごし方が子どもの部活動のスケジュール優先になってしまいがちなことも事実です。わずかな部活の休みに合わせて家族がそろった行事を計画していても、急な部活(練習試合等)の実施ですべてが白紙に戻ることもあります。

「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)の実現も男女共同参画社会を築いていくための大きなテーマです。練習が過重となつている部活動では、故障者が増えたり、精神疲労が積み重なったりして成果が上がらない場合もあります。このたびのご指摘を、部活動の顧問で共有していきたいと考えています。